

市民会議における意見について

■基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

提出意見

家族で飼っているペット等の生きものは最後まで面倒を見る。

有機栽培・低農薬野菜（型の悪いもの、虫食いのもの）の店頭に出てくるシステム

農業の衰退と開発による里山環境の劣化と生きものの種類と数の激減の現状を踏まえ、希少生物の生息・生育環境などの谷津や水辺の保全システムを条例として策定し、実施のための予算措置をとるなど、自然と共生するまちづくりのための具体的で実行力のある保護・保全政策を早急に策定されたい。策定にあたっては、都市マスタープランや景観条例なども取り入れて、環境保全課だけでなく、市政全般にわたって適用する。

生きもの調査に当たっては、いるかいないかだけでなく、生息・生育地域の変化や生息数などの量的変化もわかる調査とされたい。以前の調査についても参考としてほしい。

谷津（田畑、竹林の再生利用）の活用

里山、竹林、耕作放棄地に対する市民の活動をB a c k u pする補助金制度の新設等を検討し、その整備・保全を推進し緑地保全に努められたい。

里山、竹林等を守るボランティア団体を増やし、補助金などを充実する。

里山、小川等の希少生物・植物を守り育てる活動を推進する。

■基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

提出意見

土地、地下水の汚染、環境の悪化を生まない環境づくり

車生活からの脱却（シルバー世代、高齢者）ふれあいバスの拡大、増便

防災カメラの設置を促進し、町内会などに防災カメラを設置する場合の補助金などを充実する。

防災行政無線の音量の問題（大雨、風で音が聞こえづらいので不安）

断水時の水の補給（幼稚園、学校に手動式の井戸の設置）

激烈化する自然災害対策として、斜面林や谷津などのグリーンインフラを活用するため、里山地域の管理システムを早急に整備されたい。

下水道や浄化装置を通さず、水路や河川に直接流す汚染水については、流入阻止のための強制力ある条例を策定されたい。

引き続き下水道の整備、合併浄化槽の導入促進を通じて一層の水質改善に努められたい。

合併浄化槽の推進を図る。

印西市は印旛沼や手賀沼に接しているので、水質（COD）のワースト1と2の汚名を脱却すべく、印旛沼と手賀沼の水質保全協議会の一員として、もっと沼の水質浄化に取り組むべきである。

大気のPM2.5について改善目標を掲げ、その改善に取り組んで欲しい。

毎年、夏になると、印西市でも光化学オキシダントの注意報発令が数回出ている。注意報発令を減らす対策を実行すべきである。

■基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

提出意見

町と自然環境への距離が近い（少し歩けばすぐに自然にふれあえる）

都心へのアクセスの良さ、近さ。交通費の高さからの脱却。

文化財への関心を持ってもらう企画・推進

ニュータウン隣接地（市街化調整区域・農地転用区域）の宅地造成については、里山地域の景観や生態系を崩さないよう基準を再検討されたい。

交通不便地域対策としてふれあいバスの更なる充実を検討願いたい。

ふれあいバスの拡大（地域的にも・時間的にも増便）を図る。

不法投棄発生件数が増加傾向にあるのは大きな問題です。警察・自治会との連携強化を図り、巡回強化等実行推進されたい。

ゴミゼロの回数を年2回ではなく、年4回にする方向で検討して頂きたい。

ごみ拾いボランティアの募集を検討して頂きたい。

■基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

提出意見

気候変動への関心、対策、促進する計画

気候変動による雨の減少、大雨の日数の増加（農作物への被害など回避、軽減していく適応）

一層のごみの分別、減量化の推進を図り循環型社会の構築に努められたい。

家屋に設置する太陽光パネルについては、補助金を増額、増量し、積極的な導入を検討されたい。

温室効果ガスの排除・抑制に向けて努力してもらいたい

省エネライフの実現、普及促進

ウォームビズを家庭でも進めて、暖房費の削減を図る。1枚多く羽織る。

クールチョイス活動を市民に普及促進して頂きたい。

環境家計簿の普及促進を図る。

印西市は、温室効果ガスを減らす数値目標は、印西市庁内エコプランしかなく、しかもその削減目標は、平成25年度レベルより令和4年度までに4%削減と極端に少ない。一人当たりの削減目標も基準年度の平成23年度に比べて令和3年度までに「現状以下」と数値目標がない。しかも平成30年度の実績は基準年度である平成23年度（4.00t-CO2/年）と比べて4.36t-CO2/年と増えている。これでは千葉県の「パリ協定」の採択を踏まえて2015年に定めた「家庭部門の温室効果ガスの削減目標（2013年度→2030年度）の42.6%を達成できない。

印西市は、小さな市なので、法律の義務付けはないが、平成28年度から令和2年度までを実施時期に定めた現在の第2次環境基本計画の終了を待たずに、家庭部門に限らず、産業部門、業務部門、運輸部門なども含めて削減目標を定め、その実現に努力すべきである。開始時期が遅れば、それだけ達成が困難になる。

印西市の小学校、中学校と協力し、学校で地球温暖化対策教育のカリキュラムを定め、これからますます脅威になってくる地球温暖化に対する対策（緩和策と適応策）の教育を実施すべきである。

■基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して

提出意見

市民アカデミーの充実、促進、継続、飛躍に力を入れて頂きたい。

SDGsについて広く市民に伝える（環境フェスタ、だんごまつり）

自然と都市機能に恵まれている印西市の魅力を将来にわたって保持するため、里山保全活動に市民が積極的に関わるシステムを検討されたい。

里山の生態系やグリーンインフラ機能を保持するため、斜面林管理や草刈りなどを実施する地域市民や保全団体等に対して、市からの助成を検討されたい。

人材育成の重要性を認識し、環境保全活動へのシルバー世代（Know Howの共有）の活用策を積極的に推進されたい。

小中学校の環境教育、環境意識の向上

小学校、中学校の環境教育の機会を増やし、地球環境、自然環境への関心の促進を図る。